

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271200228		
法人名	社会医療法人 青虎会		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	静岡県御殿場市川島田1084-1		
自己評価作成日	令和4年10月21日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2271200228-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年12月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍ではあるが感染対策に考慮しながら季節に合わせて外出できる行事を企画しています。日常生活においては、一人一人の介護計画に合わせ作品作りや散歩、機能訓練、家事などを行っています。また、敷地内にある菜園で野菜を育て収穫を楽しみ食卓でおいしく頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療法人を本部としたGHであることから、事業所運営や医療面でのバックアップがあり、利用者の健康管理を含め、管理者・職員は安心して運営にあたっている。管理者は、週1回の幹部会議に参加し、ケア会議や介護ミーティングにて職員との意見交換・情報共有を図っている。職員はそれぞれ委員会を担当し、毎月の勉強会を通し、自らのスキルアップと他事業所職員との意見交換を行うことができる。管理者と職員は、毎年理念に基づいた自己目標を掲げ、理念「その人らしく生きられる～」の達成に努めている。コロナ禍でも万全な感染対策をとりながら、家族との窓越し面会や近隣の散歩、事業所菜園での作業などを続けて、利用者の暮らしや関係継続を支援している。コロナ禍により、地域交流の制限が続いているが、コロナ後を見据え、保育園児との交流や祭り、クリスマス会、敬老会など再開に向けて準備を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生きられる。そしてすべての人に支えられる生活空間」を理念に掲げ、毎年それに基づいて目標をつくり実践に生かしている。新人スタッフへの働きかけがまず必要である。	医療法人を本部としている環境を活かして、週1回法人グループの幹部会議を行い、情報の共有を図ると共に、事業所においてはケア会議や月1回の介護ミーティングの場で理念の確認や情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を継続していく中で地域とのやりとりはできているがコロナ禍の為交流は途絶えている。だからその中での交流方法を今後考えていきたい。施設便りは毎月発行している。	コロナ禍でも施設周辺の散歩の際に、近隣住民と挨拶を交わしたり、近くの畑に出掛けた時も気にかけてくれる近隣の方から声をかけてもらったりしている。コロナ禍以前の活発な活動となるように、コロナ後を見据え保育園児との交流や自治会との行事の再開に向けて準備を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報委員会を通して活動を実施している。日頃の施設の様子は施設便りを通し発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活などの様子や困っていることも伝え現状を理解して頂いている。アドバイスや質問など意見交換し、今後のサービス向上に活かしている。	コロナ禍により書面開催として、市・地域包括支援センター職員、区長、民生委員、家族等へ、施設の様子や行事の内容等を載せた報告書を送付し、意見提示を求め、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報を提供している。	市・地域包括支援センター職員には、都度運営推進会議の報告書を送り、意見の聴き取りと情報の提供を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを掲げている。ケア会議をしていく中で時折グレーにあたることも実際あるがモニタリングを重ねていく事でゼロを目指している。身体拘束をしないケアは委員会からの発信もあり取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は法人本部により各部署から2名が参加し、毎月開催している。身体拘束についての研修会は、法人勉強会の「あすなる研修会」の中で年に2回定期的で開催されている。マニュアルを適宜改訂して都度職員勉強会を行い、身体拘束をしない支援を実践している。	

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングなどで寄り添いの大切さを学ぶ中で意識を共有し、虐待へ発展しないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者はいるが、実情学ぶ機会を持たずそのため理解している職員は少ない。今後学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書を提示し、改定時は重要事項説明書を提示しそれぞれ同意を得ている。また解約時には十分な説明を行い理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃のコミュニケーションの中から希望や要望を引き出している。家族には面会時こちらから声かけを行い話しやすい環境を心掛け意見や要望などには速やかに対応し、サービスの改善につなげている。	家族は月に1回の支払い時に、できるだけ来所してもらうようにしていて、その機会を利用し意見を伺っている。コロナ禍でも窓越し面会を継続し、家族との関係が途切れないように心掛け、毎月写真を掲載した「ふれんど新聞」にて事業所での様子を発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告・連絡・相談はその都度受けている。すぐに解決できるものはその場で対応するが時間を置く場合はその後、申し送りノートを活用したり介護ミーティングで話し合いをして運営に反映させている。	コロナ禍でも毎月の介護ミーティングは感染対策を取りながら継続して行っている。職員からの発言や提案も多くあり、申し送りノートやケアダイアリーは出勤時に必ず確認して情報共有を図っている。管理者は職員面談を年に2回実施し、普段から意見が言いやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己申告票を提出している。それをもとに評価を行いヒアリングを実施している。必要時は随時面接を行い本人の気持ちを受け止め各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老健で開催している月1回の勉強会に参加している。外部研修への参加の機会を増やしていきたい。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催する交流会や勉強会の情報を包括支援センターなどに問い合わせをして今後機会を設けていきたいと思っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅などへ訪問調査に伺い、アセスメントを行っている。またケースレコードにも記入して頂き事前の情報を基に気持ちを引き出せるよう声掛けに配慮しながら会話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の不安や要望などの思いに耳を傾け、安心して頂けるような対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や面会をこまめに行いながら思いを共有し受け止めて支援していけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において家事や作業など出来ることを手伝って頂きながら生活を共にしそれぞれが役割を持った関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を家族に伝えている。時に家族にも協力して頂きながら共に本人を支え、安心した生活を送れるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・近所の方など様々な方々が訪ねて来られる。コロナ禍にて現在はドア越しの面会になっているが声掛けに配慮しながら来て頂けるように努めている。コロナ禍が収束したら外出支援も増やしていきたい。	家族との面会は、コロナ禍でもガラス越しで継続していた。訪問美容師は定期的に訪問があり、馴染みの関係になっている。散歩・買い物・ドライブ・文化展見学など、利用者個々の希望に合わせて関係継続を支援している。	

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に両ユニットへの行き来は盛んである。一人で行動している方や仲が気まずい同士でも職員が仲介する事で関係性もその場では歌などを通して和やかな時を過ごせている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ふれんどでの生活が困難となり併設病院や老健へ移られた場合には会いに伺い今まで通りの関係性を大切にしている。また家族から相談がある場合は常に相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活から思いや訴えに耳を傾け、それぞれに添えるよう対応に努めている。また困難な方へはこれまでの生活背景に添ったり表情をくみ取りながら本人の気持ちに寄り添っている。	入居時に「利用調査表」「ケースレコード」に記入して、全職員が全利用者分を把握して支援にあたっている。入居後の様子は、利用者の表情を観察して職員で話し合い、ノートに記入して情報を共有している。毎週ケア会議で意見交換をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中から本人や家族に伺っている。また前の担当ケアマネからもこれまでの経過を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録する各ユニットごとのケアダイアリー表で申し送りを行っている。詳細については出勤時に各自カルテに目を通し、その日の業務についている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週金曜日にケア会議を実施している。計画作成担当者が中心となり日頃の生活のモニタリングを行いながら気づいたこと、変化など再検討してそれぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護に努めている。	毎週のケア会議や申し送りノート、介護ミーティングや3か月に1回のモニタリングにて、日々の気づきや個々の状態の変化を把握し、職員との意見交換や情報共有を図っている。ケアマネジャーは、職員からの意見を基に、かかりつけ医や看護師の意見も聞きながら、現状に即した対応に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアダイアリー表からそれぞれに情報を共有している。気づきは即時ケアダイアリー表などに記録するとともに改善はケア会議に反映し随時対応している。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化や気づきは介護記録やケアダイアリー表に記録している。その記録から変化していることは現サービスにとらわれず柔軟に改善している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を運営推進会議で頂いている。コロナ禍で地域活動でも制限が多いが今後復活したら再びそれぞれの趣味や好みに合わせ豊かに暮らしていけるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設に病院があるため希望に応じ併設病院へと変える方もいるがこれまでの主治医との関係を保ちたい方は継続して頂いている。必要に応じて専門医療が必要な場合は主治医に相談しながら専門病院での治療を受けている。	法人が運営する併設病院にて、月1回外来での診療を受け、常に連携した対応ができる。他科受診の際には、主治医と相談しながら、家族と連携して職員が対応している。逐次看護師が訪問し、利用者の様子を細かく観察していて、常に電話で相談することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師とは随時、情報共有し支持を仰いでいる。併設老健の看護師長にも朝礼で状態を伝え緊急時には来居頂き指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーを基に細かな情報を伝えている。入院中も病院看護師から現状を把握し、退院後速やかに対応出来るよう受入れ準備をしている。(今年度はなかった。)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設の老健や病院と連絡を取りながら家族と一番良い方法を検討している。基本的には本人が住み慣れた場所で少しでも長く暮らせるようチームで支援している。	入居時に、重度化した際の対応について説明し、利用者家族の同意を得ている。緊急時には、法人内の併設病院と連携を取りながら対応する仕組みができています。職員は、急変時の対応について法人で行う「あすなる勉強会」にて研修を受け、適切な対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設け、周知している。また併設老健の勉強会にも参加している。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練を行うとともに他部署との訓練も実施している。併設老健との災害対策委員会を月1回実施し同グループ内の横の連携をまずは重視している。	併設の施設との連携を重視している。防災委員会が年4回の訓練内容を決め、全体での基礎訓練と施設ごとの訓練を行っている。発電機も2台、併設のショートステイと共用で備え、定期的に職員の取り扱い訓練を行っている。	令和6年4月までに災害時BCP計画の作成が求められていますので、BCP計画に基づく事業所毎の対応(地域住民との関わりを含む。)を検証し、課題を次回訓練に繋げるという災害対策訓練の実施に向けた検討を期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた親しみを込めた関わりをしている。否定せずその方が安心して笑顔で生活できるよう特に声掛けは大切に対応している。これからも皆で共有していきたい。	職員は、プライバシー保護に関する勉強会にて、毎年必ず確認している。申し送りノートやケア会議を利用して、都度情報を共有しながら日々のケアに繋げている。課題のある職員については管理者やリーダーが注意するだけでなく、職員同士でも注意し合う環境である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方へは日頃からコミュニケーションを取り表現できるよう働きかけている。意思表示ができない方へは本人の嗜好に合わせた声掛けにより出来るだけ表現出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずは個々に合わせた支援を心掛けている。強制した支援は基本は行わない。それぞれの日々の過ごした方は希望に添いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おおよそ自立されている方は本人に任せている。お化粧されている方もおり、希望時は介助している。起床時など洗面や身だしなみには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いやアレルギーを持つ方もいるのでその方に合わせ提供している。また季節に合わせたメニューにしたりおやつも手作りする日もある。その方の生きがいになるよう本人の力に合わせた手伝いもして頂いている。	利用者と接する時間を確保したいという職員の意見で、3年前から食材配送業者の献立を使用している。月に1度は食事レクを取り入れ、利用者の希望に合わせて食事やおやつを手作りしている。食事時間を柔軟にしたり、メニューを選んでもらったり工夫して取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タイヘイの献立を利用している。時折メニューを変えて利用者の希望にも応えている。食事量は全員毎食記録し把握している。水分もお茶時間を設けたり接種する回数を増やしたり個々に合わせている。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせている。(自立・声掛け・介助)特に嫌がる方へは工夫をしたケアを行っている。また必要時は併設病院にある歯科へ受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在24時間オムツを使用している方はいない。全員トイレに行かされている。声掛けや誘導が必要な方は排泄パターンに合わせて行っている。トイレの場所がわからない方へは声掛けし自立に向けた支援を行っている。	「排泄・排便チェック表」に記入し、利用者の様子を観察して早めのトイレ誘導を心掛けている。自立の利用者は見守りや声掛けを行っている。布パンツやパット、リハビリパンツを組み合わせて支援している。夜間はポータブルトイレや二人介助の利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食・昼食時はヤクルト・ヨーグルトを取り入れている。便秘がちの方へは牛乳飲用をすすめている。排便チェックを行っており服薬も個々に応じて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある方にはそれに添い入浴して頂いている。一日を通しその方が入浴する時間に良い順番を柔軟に対応している。嫌いな方へは工夫して声掛けしている。その方の状態に合わせて足浴や清拭も行っている。	1日おきの入浴、2日おきの入浴など、利用者の好みと状態により、入浴を支援している。夕食までの好きな時間に一人ずつ、湯を取り替え利用者の好きな入浴剤を選んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに合わせて声掛けしている。日中、天気の良い日は布団を干して夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の状況はカルテとファイルで確認できるようにしている。血圧の変動がある方は一日に定検を増やして受診時に主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性、趣味、特技を生かし、日々の生活に楽しみを作りまた、役割を持ち生きがいを持って頂けるよう支援している。難しい方へは横に寄り添いコミュニケーションを取っている。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実際、日常的に外出したい方は多くないが、朝ゴミ捨てへ一緒に行ったり日中散歩へ出掛けている。春や秋には車で季節感を味わいドライブなど楽しんでいる。	コロナ禍でも感染対策を取りながら、事業所周辺の散歩や畑で育てる作物の様子を見に行ったり、職員は工夫しながら外出支援を続けている。感染状況をみながら、利用者個々の希望に合わせて、お弁当持参の遠足やお花見を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人ごとおこづかい超で管理している。実際、お金を扱うことは出来ていない。外出が日常的にできるようになったら買い物支援をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい方へは支援している。字が書ける方には手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや温度などこまめに調整している。食事の準備時は台所からの音やにおいによって生活感がでている。また手作りのカレンダーや写真や作品を貼って楽しみも作っている。散歩に出かけ季節の花を摘んできて飾ったり居心地よく生活できるようにしている。	事務室を中心に各ユニットがあり、居間のテレビ前には炬燵やソファーに座り、好みの場所で寛ぐことができるよう配慮している。感染症防止対策として、朝の換気、都度の手指消毒、天気の良い日の布団干しを日課として、清潔で安全な環境作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやソファー、自転車こぎもあり思い思いに過ごしている。隣のユニットへも自由に行き来して交流も盛んである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、布団、物、服など持ちこみ生活されている。各居室はそれぞれに違いその方の安心出来る空間となっている。作品づくりをした物を飾って自慢される方が楽しそうに話しかけてくれる。	居室は、クローゼットと洗面台が造り付けられ、馴染みの家具・布団を利用して、利用者好みの部屋作りを心掛けている。カレンダーや自作の作品を飾り、利用者それぞれが居心地良く過ごせるように支援している。居室掃除の際は、利用者に声掛けをして、了解を得て行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーでリビング、トイレ、浴室には手すりがついていて安全をサポートしている。居室内も個々に合わせトイレや簡易手すり、畳など設置し安全に自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271200228		
法人名	社会医療法人 青虎会		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	静岡県御殿場市川島田1084-1		
自己評価作成日	令和4年10月21日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271200228-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年12月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍ではあるが感染対策に考慮しながら季節に合わせて外出できる行事を企画しています。日常生活においては、一人一人の介護計画に合わせ作品作りや散歩、機能訓練、家事などを行っています。
また、敷地内にある菜園で野菜を育て収穫を楽しみ食卓でおいしく頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生きられる。そしてすべての人に支えられる生活空間」を理念に掲げ、毎年それに基づいて目標をつくり実践に生かしている。新人スタッフへの働きかけがまず必要である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議を継続していく中で地域とのやりとりはできているがコロナ禍の為交流は途絶えている。だからこその中での交流方法を今後考えていきたい。施設便りは毎月発行している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報委員会を通して活動を実施している。日頃の施設の様子は施設便りを通し発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活などの様子や困っていることも伝え現状を理解して頂いている。アドバイスや質問など意見交換し、今後のサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報を提供している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを掲げている。ケア会議をしていく中で時折グレーにあたることも実際あるがモニタリングを重ねていく事でゼロを目指している。身体拘束をしないケアは委員会からの発信もあり取り組んでいる。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングなどで寄り添いの大切さを学ぶ中で意識を共有し、虐待へ発展しないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者はいるが、実情学ぶ機会を持たずそのため理解している職員は少ない。今後学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書を提示し、改定時は重要事項説明書を提示しそれぞれ同意を得ている。また解約時には十分な説明を行い理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃のコミュニケーションの中から希望や要望を引き出している。家族には面会時こちらから声かけを行い話しやすい環境を心掛け意見や要望などには速やかに対応し、サービスの改善につなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告・連絡・相談はその都度受けている。すぐに解決できるものはその場で対応するが時間を置く場合はその後、申し送りノートを活用したり介護ミーティングで話し合いをして運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己申告票を提出している。それをもとに評価を行いヒアリングを実施している。必要時は随時面接を行い本人の気持ちを受け止め各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の老健で開催している月1回の勉強会に参加している。外部研修への参加の機会を増やしていきたい。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催する交流会や勉強会の情報を包括支援センターなどに問い合わせをして今後機会を設けていきたいと思っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅などへ訪問調査に伺い、アセスメントを行っている。またケースレコードにも記入して頂き事前の情報を基に気持ちを引き出せるよう声掛けに配慮しながら会話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の不安や要望などの思いに耳を傾け、安心して頂けるような対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や面会をこまめに行いながら思いを共有し受け止めて支援していけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において家事や作業など出来ることを手伝って頂きながら生活を共にしそれぞれが役割を持った関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を家族に伝えている。時に家族にも協力して頂きながら共に本人を支え、安心した生活を送れるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・近所の方など様々な方々が訪ねて来られる。コロナ禍にて現在はドア越しの面会になっているが声掛けに配慮しながら来て頂けるように努めている。コロナ禍が収束したら外出支援も増やしていきたい。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に両ユニットへの行き来は盛んである。一人で行動している方や仲が気まずい同士でも職員が仲介する事で関係性もその場では歌などを通して和やかな時を過ごせている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ふれんどでの生活が困難となり併設病院や老健へ移られた場合には会いに伺い今まで通りの関係性を大切にしている。また家族から相談がある場合は常に相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活から思いや訴えに耳を傾け、それぞれに添えるよう対応に努めている。また困難な方へはこれまでの生活背景に添ったり表情をくみ取りながら本人の気持ちに寄り添っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中から本人や家族に伺っている。また前の担当ケアマネからもこれまでの経過を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録する各ユニットごとのケアダイアリー表で申し送りを行っている。詳細については出勤時に各自カルテに目を通し、その日の業務についている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週金曜日にケア会議を実施している。計画作成担当者が中心となり日頃の生活のモニタリングを行いながら気づいたこと、変化など再検討してそれぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアダイアリー表からそれぞれに情報を共有している。気づきは即時ケアダイアリー表などに記録するとともに改善はケア会議に反映し随時対応している。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化や気づきは介護記録やケアダイアリー表に記録している。その記録から変化していることは現サービスにとらわれず柔軟に改善している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を運営推進会議で頂いている。コロナ禍で地域活動でも制限が多いが今後復活したら再びそれぞれの趣味や好みに合わせ豊かに暮らしていけるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設に病院があるため希望に応じ併設病院へと変える方もいるがこれまでの主治医との関係を保ちたい方は継続して頂いている。必要に応じて専門医療が必要な場合は主治医に相談しながら専門病院での治療を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護師とは随時、情報共有し支持を仰いでいる。併設老健の看護師長にも朝礼で状態を伝え緊急時には来居頂き指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーを基に細かな情報を伝えている。入院中も病院看護師から現状を把握し、退院後速やかに対応出来るよう受入れ準備をしている。(今年度はなかった。)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設の老健や病院と連絡を取りながら家族と一番良い方法を検討している。基本的には本人が住み慣れた場所で少しでも長く暮らせるようチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設け、周知している。また併設老健の勉強会にも参加している。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練を行うとともに他部署との訓練も実施している。併設老健との災害対策委員会を月1回実施し同グループ内の横の連携をまずは重視している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた親しみを込めた関わりをしている。否定せずその方が安心して笑顔で生活できるよう特に声掛けは大切に対応している。これからも皆で共有していきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方へは日頃からコミュニケーションを取り表現できるよう働きかけている。意思表示ができない方へは本人の嗜好に合わせた声掛けにより出来るだけ表現出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずは個々に合わせた支援を心掛けている。強制した支援は基本は行わない。それぞれの日々の過ごした方は希望に添いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おおよそ自立されている方は本人に任せている。お化粧されている方もおり、希望時は介助している。起床時など洗面や身だしなみには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いやアレルギーを持つ方もいるのでその方に合わせ提供している。また季節に合わせたメニューにしたりおやつも手作りする日もある。その方の生きがいになるよう本人の力に合わせた手伝いもして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タイヘイの献立を利用している。時折メニューを変えて利用者の希望にも応えている。食事量は全員毎食記録し把握している。水分もお茶時間を設けたり接種する回数を増やしたり個々に合わせている。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせている。(自立・声掛け・介助)特に嫌がる方へは工夫をしたケアを行っている。また必要時は併設病院にある歯科へ受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在24時間オムツを使用している方はいない。全員トイレに行かれている。声掛けや誘導が必要な方は排泄パターンに合わせて行っている。トイレの場所がわからない方へは声掛けし自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食・昼食時はヤクルト・ヨーグルトを取り入れている。便秘がちの方へは牛乳飲用をすすめている。排便チェックを行っており服薬も個々に応じて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある方にはそれに添い入浴して頂いている。一日を通しその方が入浴する時間に良い順番を柔軟に対応している。嫌いな方へは工夫して声掛けしている。その方の状態に合わせて足浴や清拭も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに合わせて声掛けしている。日中、天気の良い日は布団を干して夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の状況はカルテとファイルで確認できるようにしている。血圧の変動がある方は一日に定検を増やして受診時に主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性、趣味、特技を生かし、日々の生活に楽しみを作りまた、役割を持ち生きがいを持ってもらえるよう支援している。難しい方へは横に寄り添いコミュニケーションを取っている。		

静岡県(グループホームふれんど)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実際、日常的に外出したい方は多くないが、朝ゴミ捨てへ一緒に行ったり日中散歩へ出掛けている。春や秋には車で季節感を味わいドライブなど楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人ごとおこづかい超で管理している。実際、お金を扱うことは出来ていない。外出が日常的にできるようになったら買い物支援をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい方へは支援している。字が書ける方には手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや温度などこまめに調整している。食事の準備時は台所からの音やにおいによって生活感がでている。また手作りのカレンダーや写真や作品を貼って楽しみも作っている。散歩に出かけ季節の花を摘んできて飾ったり居心地よく生活できるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやソファ、自転車こぎもあり思い思いに過ごしている。隣のユニットへも自由に行き来して交流も盛んである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、布団、物、服など持ちこみ生活されている。各居室はそれぞれに違いその方の安心出来る空間となっている。作品づくりをした物を飾って自慢される方が楽しそうに話しかけてくれる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーでリビング、トイレ、浴室には手すりがついていて安全をサポートしている。居室内も個々に合わせPTイレや簡易手すり、畳など設置し安全に自立した生活が送れるように工夫している。		